

令和 2 年度
学校自己評価報告書

令和 3 年 4 月

学校法人八文字学園
 水戸自動車大学校

◆令和2年度 学校自己評価について

学校法人八文字学園 水戸自動車大学校は、二級自動車整備士資格取得を目的とし「国土交通大臣指定の自動車整備士一種養成施設」として、平成11年に開校しました。

以来、専門的な技術を必要とする車体整備学科・高度な自動車整備技術を修得する一級自動車整備学科の新設と最先端の教育設備を基に実務教育を実施し、専門的かつ実践的な人材を輩出して参りました。

その間、自動車業界においては、ハイブリッド車や電気自動車などの普及が著しく、社会的・経済的にも各自動車メーカーが鎬を削り、人々の生活に大きな影響を与えてきました。

本校におきましても、この社会の変化にいち早く対応し、高度な専門的知識と技術力を持った学生の育成に力を注いでおります。

今後も、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教員水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んで参ります。

1. 対象期間

令和2年4月1日～令和3年3月31日

2. 実施方法

(1) 自己点検評価委員会による合議制の評価

実行委員会を設置し、自己点検・自己評価を実施し、改善に取り組んでいます。

学校長をトップとして学校自己評価委員（教職員）により、その規定によって方針を定め、評価を行っております。

(2) 参考基準：「専修学校における学校評価ガイドライン」

(3) 評価期限：年一回年度末

(4) 評価結果の公開：報告書の作成保管およびホームページでの公開

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施します。

- (1) 教育理念・目的
- (2) 学校運営
- (3) 学校活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4. 評価項目に対する評価

評価は4～1の点数で記載します。

評価 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

◇1 教育理念・目的 総合評価 2.91 (昨年評価 2.97)

教育理念

水戸自動車大学校は、技術を身に付け、人間性を伸ばし、未来を創造する整備士を目指す。人の生活に欠かせない自動車は日々進化を続けています。

現代の整備士には、5年後、10年後の車社会を支えることのできる技術、そして人間性が求められています。車社会の変化にいち早く対応し、高度な専門的知識と技術力を持った学生の育成を目的として、常に最先端の自動車整備技術を修得する気概にあふれた人材の養成に取り組んでおります。

また、社会人として必要な人間性のある人材育成に取り組んでおります。

(1) 評価

評価項目		評価(4~1)
1	理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	2.89
2	学校における職業教育の特色を示しているか	3.00
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	2.67
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	2.89
5	各学科の教育目的、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.11

(2) 現状および問題点と改善策

①カリキュラムの実効性の評価や業界の動きを的確にキャッチする仕組みが必要である。

②業界の動向を見据え、長期的構想に関しては学内プロジェクトによるさらなる対策が必要である。

◇基準2 学校運営 総合評価 2.85 (昨年評価 2.70)

評価項目		評価(4~1)
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	2.78
2	運営方法に沿った事業計画が策定されているか	2.78
3	運営組織や意識決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	2.89
4	人事、給与に関する制度は整備されているか	2.78
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	2.89
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.89
7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	2.89
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.89

(2) 現状および問題点と改善策

①人事、給与に関する制度は整備されており、時代に合わせた見直しを適宜検討している。人事面においては、問題点を明らかにし改善の方策を検討していく。

②情報システムによる業務の効率化は図られており、ワークフローシステムを導入し、スムーズな運用を図っている。

◇基準3 教育活動 総合評価 2.87 (昨年評価 3.01)

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.78
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.89
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.11
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.78
5	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.89
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によりインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.00
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.22
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.11
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.11
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.78
11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.78
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	2.67
13	関連分野における先端的な知識・技能等の修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のために研修等の取組が行われているか	2.67
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.44

(2) 現状および問題点と改善策

①学科ごとにカリキュラム（学科概要、科目関連、シラバス）は体系的に編成されている。

②学科ごとに、企業等と連携した実習授業を行っており、実践的な職業教育について体系的に位置づけている。

③全学科において、企業連携実習として実践的な能力を修得する機会を設けておりさらに充実した企業連携教育を目指していく。

④採用は、資格取得、経験年数、業務内容、指導力、人間性等の教員の資質面を重視に努めている。また、必要な場合は、業界、企業と連携して行っている。

◇基準4 学修成果 総合評価 3.04 (昨年評価 3.17)

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
1	就職率の向上が図られているか	3.33
2	資格取得率の向上が図られているか	3.22
3	退学率の低減が図られているか	3.11
4	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	2.89
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	2.67

(2) 現状および問題点と改善策

①進路指導担当教員による個人指導の徹底、企業求人情報の開示、担任による就職対策、授業枠での指導など総合的な就職支援活動を展開して就職率の向上を図っている。

②学力低下や学習意欲の減退による退学防止のために面接指導、カウンセリングの充実、基礎学力の充実、また特別対策授業の実施等を通じての指導に力を入れている。

◇基準5 学生支援 総合評価 2.98 (昨年評価 2.86)

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.44
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.00
3	学生の経済的に対する支援体制は整備されているか	3.33
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.78
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.89
6	学生の生活環境への支援は行われているか	2.89
7	保護者と適切に連携しているか	3.00
8	卒業生への支援体制はあるか	2.67
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.00
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の組織が行われているか	2.78

(2) 現状および問題点と改善策

- ①担任を中心としたきめ細かな相談体制を確立しており、学生から寄せられる様々な相談を受け付けている。
- ②一人暮らし支援制度、定期券半額負担制度、特待生入学制度（学業特待、資格特待、精勤特待、OC特典）、学費の分割納入など、いろいろな側面から経済的に支援する制度を整備している。また、日本学生支援機構奨学金や国民金融公庫・県の奨学金、民間奨学金の積極的な紹介により経済的に支援している。
- ③年2回の保護者宛ての発送文書（成績、出欠状況、資格取得状況）や担任制での電話連絡、面談、家庭訪問などで密に連絡し、適宜三者面談等を実施している。さらに、学校行事や検定試験等についても案内・連絡するほか、年1回保護者会を開催している。
- ④自動車整備業界で現在利用されている環境を念頭に整備している。近年では、ハイブリッド車や電気自動車の整備に関する設備の充実を目途として学習支援環境の改善を行っている。企業と連携し、最新技術の講習会を実施している。
- ⑤高校生向けに自動車整備に関する模擬授業などを実施し、生徒のスキル向上を図るとともに、職業への関心を高める支援を行っている。

◇基準6 教育環境 総合評価 2.81 (昨年評価 2.67)

(1) 評価

評価項目		評価(4~1)
1	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.78
2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	2.80
3	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	2.78
4	防災に対する体制は整備されているか	2.78

(2) 現状および問題点と改善策

- ①1級自動車整備学科においては全学生を対象に個別にインターンシップを実施しているほか、自動車整備学科においても希望学生を対象に適宜実施している。
- ②防災に関する計画書および災害時の行動マニュアルは整備しており、避難経路の周知や緊急避難時の連絡体制は整備されている。また各種防災に対する安全指導体制を進めており、業者等による消防設備等の点検（年2回）や学生の傷害保険等も行っている。防犯については、防犯マニュアルを準備し、適宜指導している。

◇基準7 学生の受け入れ募集 総合評価 2.93 (昨年評価 3.11)

(1) 評価

評価項目		評価(4~1)
1	学生募集活動は、適正に行われているか	2.89
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.00
3	学納金は妥当なものとなっているか	2.89

(2) 現状および問題点と改善策

①学生の確保は、学校運営上最重要課題である。そのため学生募集活動は、必須条件となる。専門学校が持つメリット・魅力を高校生や保護者、高校教師、一般の人々にどのようにして訴え、惹きつけるか。学校の実績を基本に、入学希望者に対して本校の教育の取り組みや成果について適切な入学情報を提供できるよう配慮している。

◇基準8 財務 総合評価 2.92 (昨年評価 3.00)

(1) 評価

評価項目		評価(4~1)
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.89
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.89
3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.00
4	財務情報公開の体制整備はできているか	2.89

(2) 現状および問題点と改善策

①学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題であり、法人全体としても厳格な予算編成を行っている。学園全体の予算編成方針に基づいて計画を立案し、各校の運営計画に従って予算を執行している。会計監査については、税理士の指導を受けながら会計処理を行った上で、公認会計士による外部監査、本法人の監事2名による内部監査を毎年度2回(5月と12月)実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。

◇基準9 法令等の遵守 総合評価 3.00 (昨年評価 3.10)

(1) 評価

評価項目		評価(4~1)
ア	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.20
イ	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3.00
ウ	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2.93
エ	自己評価結果を公開しているか	3.07

(2) 現状および問題点と改善策

- ①「個人情報管理規定」を策定し、個人情報の適正な管理運用に努めている。日常の個人情報の取り扱いにおいて、個人情報の保護に対する意識付けを強化し、定期的な注意喚起を行う。

◇基準 10 社会貢献・地域貢献 総合評価 2.92 (昨年評価 3.00)

(1) 評価

評価項目		評価(4~1)
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.73
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.47
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2.73

(2) 現況および問題点と改善策

- ①水戸市の地域活性化として学生による学校周辺の清掃活動を行っている。また、地域の高校生向けに出張授業を行い、学生の職業への関心を高める支援を行っている。

◇基準 11 国際交流

現在、留学生の受け入れは、行っておりません。

以上

【まとめ】

以上が、2021年3月に自己評価委員(教員)を対象に行った自己評価の結果です。平均総合評価は2.89で ほぼ適切:3 ~ やや不適切:2 の間に位置しております。

特に我々教員のレベルでは、

- ・3.教育活動 2.87
- ・4.教育環境 2.81
- ・10.社会貢献・地域貢献 2.67

の評価を上げるべきである。

現在、高等教育においては、特に学生の学習成果を明確に示し、それを測定し、改善していくことが求められている。

☆学校レベル

学校レベルでの学習成果の査定(アセスメント)は、学校全体が共同して行う計画によって行われる。専門学校には、社会的ニーズに対応し、かつ、国際的に通用性のある学習成果が求められる。

☆学科レベル

学校が定める学習成果に基づき、学科レベルでの学習成果を設定し、査定する。教育課程と学生支援が対象となり、学科長、教員が科目レベルの査定結果を集約し、改善に向けてそ

の見直しを行う。

☆科目レベル

教員は、機関が定める学習成果に基づき、授業を通じて獲得できる学習成果を設定し、学生がそれを獲得したかどうかを査定する。その結果、期待する学習成果を獲得させるための教授方法などの改善を図る。

教員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて責任を果す義務がある。